

登録コード	E2342900	開講年度	2026				
授業科目	里山生態学					担当教員	井田 秀行
英文授業名	Rural Landscape Ecology					副担当	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	農村地域のいわゆる里山と呼ばれる地域における植生や植物の分布・生態の見方や調べ方を身につける。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	人と自然の関わりについて実践的に学ぶことで、子どもや親子、地域住民を想定した観察会の企画とともに、実際の運営もができるようになる。具体的には以下の通り ・自然観察会や体験プログラムを企画・運営できる ・実践の経験を言語化し、他者と共有・評価できる ・人と自然の関係性を「地域活動」として捉える視点を身につける	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	本授業は、里山を「生態系」と「人の営みが織りなす場」として捉え、観察・企画・運営・振り返り（リフレクション）を通して理解を深める実践型科目です。 春の林床植物観察から、地域イベント・企業の森・農村生態系・水路環境まで、多様なフィールドを対象とし、地域住民・企業・子どもたちとの協働を通じて、里山生態学の意義と実装を学びます。						
(5)授業計画	第1回：授業の目的と進め方を理解し、里山観察活動の企画に向けた視点を共有する。 4月7日(火)：W507生物学実験室、17:30～18:20 ※第2回目以降の実施日時を周知する。 第2回：里山における自然観察会の準備を通して、対象や伝え方について検討する。 第3回：春の里山における植物相を観察し、季節変化と人為の影響を考察する。 第4回：里山をフィールドとした自然観察活動の運営に参加し、実践的な関わりを学ぶ。 第5回：観察会の経験を振り返り、企画・運営・学びの過程を整理する。 第6回：企業の森を事例に、里山的環境の特徴と活用の可能性を現地で検討する。 第7回：企業の森を活用した自然観察活動の企画を通して、多様な関わり方を考える。 第8回：企業の森における自然観察活動の運営に参加し、場に応じた工夫を学ぶ。 第9回：企業の森での実践を振り返り、里山と社会の関係性について考察する。 第10回：地域イベントにおける里山体験プログラムの企画を行う。 第11回：里山体験プログラムの準備を通して、対象者や目的に応じた工夫を検討する。 第12回：地域イベントにおいて、里山体験活動の運営を実践する。 第13回：子ども向け活動を含む自然体験の補助・運営を通して、学びの場づくりを経験する。 第14回：地域イベントでの実践を振り返り、里山体験の意義と課題を整理する。 第15回：農村生態系を観察し、人の営みと生態系の関係を多面的に捉える。 第16回：里山管理作業に関わり、資源利用と生態系維持の関係を考える。 第17回：水路環境の調査や整備に向けた準備を行い、対象と方法を検討する。 第18回：里山の水路環境において整備作業と生物観察を行い、生態系の特徴を理解する。 第19回：研究会参加に向けた準備を通して、成果の整理と発信について考える。 第20回：研究会の運営および聴講を通して、里山生態学の多様な実践例に触れる。 第21回：授業全体を振り返り、学びの成果と今後の課題を整理する。（授業アンケート） ※校外での授業は、天候や協力団体等の状況により、日程や実施場所、内容等が変更となる可能性もある。 ※ 最終授業終了前の約15分間を「授業アンケート」を実施する時間とする。						
(6)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次のとおりである。 ・里山の生態に関する基本的理解に導く毎回の講義内容の理解を測るレポート課題 100% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・レポート課題については、（i）問題の設定が適切であり、（ii）その問題の背景を説明できており、（iii）その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、（iv）それらの課題に対しての既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、（v）その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。（i）から（v）の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	・事前学習として、高校の教科書『生物基礎』の「生物の多様性と生態系」および『生物』の「生態と環境」「生物の進化と系統」を習熟しておく。 ・野外活動の後に、その活動内容をレポートにまとめて提出する。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(9)履修上の注意	・「生物学基礎」および「生物学基礎実験」を履修済みであること。						

(9)履修上の注意	・授業の進め方について話し合うため、受講希望者は必ず初回のガイダンスに参加すること。 ・野外での活動が主体となるため、生協や、大学などで入れる傷害保険に加入していることを条件とする。 ※ 野外活動前に確認し、未加入だった場合は野外活動への参加を許可しない。 ・野外で活動するための準備は各自で用意すること（帽子、雨具、トレッキングシューズ等）。 ・野外活動のための交通費や宿泊費などの経費（合計2～3万円程度）は自己負担となる。 ・受講前に、高校の教科書『生物基礎』の「生物の多様性と生態系」および『生物』の「生態と環境」「生物の進化と系統」についてマスターしておくこと。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問や相談は原則、授業内で確認するようにし、解決できなかった場合は、随時W319に来るか、pida★shinshu-u.ac.jp（★を@に置換）にメールする。
【教科書】	・ネイチャー・プロ編集室「葉っぱで見わけ五感で楽しむ樹木図鑑」ナツメ社、2014年、ISBN-13: 9784816355905, 税抜1,380円 ・高橋修「色で見わけ五感で楽しむ野草図鑑」ナツメ社、2014年、ISBN-13: 9784816355899, 税抜1,300円 ・鎌田磨人ほか「景観生態学」 共立出版、2022年、ISBN-13: 9784320058347, 税抜3,200円
【参考文献】	・亀田龍吉「散歩しながら子どもに教えてあげられる草花図鑑」 主婦の友社、2020年、ISBN-13: 9784074408511, 税抜900円 ・鷺谷いづみ「生態学ー基礎から保全へ」 培風館、2016年、ISBN-13: 9784563078201, 税抜2,750円